

森静男 しづき 蘭方醫。天保六年閏七月二十日周防國防府生れ、明治一十九年四月四日歿（二八五―六六）。舊姓吉次、通稱吉五郎、良作、吉次泰造、森静泰。松本良順（順）、佐藤尚中心學ぶ。文久元年津和野藩醫森玄仙（白仙）の一人（女ミチ子）森峰子（）の婿養子となる。明治五年舊藩主鶴井松雲の侍醫となりて上京、りち南定と郡郡醫、子任北組の橋仙堂醫院を興業。良男の林太郎（森鷗外）以下その子文皆名を成した。著書に『破死論』（明治十一年刊）の他、手録「隨筆記」（森鷗外記念會所藏）がある。

